事例No.	2639
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	福島県漁業協同組合連合会

事例区分	地域活性化

タグ	・EBPM ・新たな政策手法の確立・活用 ・関係人口

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

福島県漁業協同組合連合会

出典

平成２９年度ふるさとづくり大賞事例集

福島県漁業協同組合連合会　　福島県いわき市

概　　要

東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質の影響により、福島県の沿岸では、操業自粛を余儀なくされたが、福島県漁業協同組合連合会（県漁連）が主体となり、安全性が確保されている魚種を対象に小規模な販売・流通調査を行い、本格的な漁業の再開に向け基礎データを取得するための試験的な漁（試験操業）に平成24年６月から取り組んできた。これまでに試験操業海域を徐々に拡大し、当初３種であった対象魚種は「すべての魚介類（出荷制限魚種を除く）」まで増加し、福島県の魚介類のブランド名である「常磐もの」を待ち望んできた地元住民から全国各地の市場まで広く流通させ、福島県の水産業の復旧・復興に大きく貢献してきた。



評価された点

・原発事故以来、地道な調査、基礎データ取得を継続し、福島県の水産業の復旧・復興に貢献している。
・福島県の漁業は、東日本大震災による漁場及び関連施設の壊滅に加え、東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質の食品影響という未曽有の被害を受けた。福島県漁業協同組合連合会は、福島県沿岸の3市7町を活動領域とする復興プロジェクトを立ち上げ、漁船や漁具、共同利用施設の復旧、震災がれきの撤去等とともに、魚介類の安全性確保に向けた体制を整備し、これらの試練を乗り切ったものであり、ふるさとづくりの大賞に値する活動として評価される。
・地域ブランドとしての売り込みのハードルとなっている風評被害と基本となる検証作業。いくつもの積み重ねの上に、やっと一歩進行する等、難題との戦いである。上質な資源を知ってもらう、愛好者になって頂く地道な活動は今後も続くと思われ期待する。



Ｙ・Ｙ・ＮＯＷＳＯＮ　　千葉県四街道市

概　　要

千葉の原風景を守るため、まちにいながら田舎の生活を体験する場の創造、休耕地の解消を含む里山保全の意識の向上、農村生活と民俗体験ができる場の提供などの活動を通じて、様々な主体との連携を図り、地域コミュニティの拠点として「伝統文化・芸術」、「食」、「農」及び「学び」を育んでいる。また、今後見込まれる外国人等の交流人口増に向けた体験型コンテンツづくりも進めている。



評価された点

・ベッドタウンにおいて、農業体験や里山保全などの活動を次々と展開し、多世代、多地域との交流を実現し、コミュニティ形成に貢献している。Ｙ・Ｙ・ＮＯＷＳＯＮ自体は、平成26年設立とまだ歴史は浅いが、年々参加者も増えてこれからに期待が持てる。
・イベントの参加者だけではなく地域住民が気軽に立ち寄れる場としての機能もあり地域の生活環境の向上に大きくつながっている。都市部でありながら田舎生活を満喫できる機会の創出が評価できる。
・インパクトのある団体名と無理のない地域活動は今後に期待が持てると感じた。

